

## シラバス

授業科目名	年度	学期	開講曜日・時限	学部・研究科など	担当教員	配当年次	単位数	科目ナンバー
AI・データサイエンス演習 B(2)	2024	後期	他	学部間共通科目	安野 智子	3年次配当	2	

### 授業形式

すべての授業回において、ハイフレックス型授業を行う。

### 履修条件・関連科目等

### 授業で使用する言語

日本語

### 授業で使用する言語（その他の言語名）

### 授業の概要

【テーマ】 社会調査・比較対照実験を用いたデータ分析

本演習では、「社会調査（あるいは比較対照実験）を通じて、人間の意識と行動を探る」ことを目的とします。具体的には、「自分で社会調査を企画し、データを集める」「集めたデータや既存のデータに対し、適切な方法で統計的な分析をする」ことに取り組みます。調査、あるいは比較対照実験は、マーケティングやビジネスでも重要な手法です。

2年目にあたるこの授業では、「既存のデータを用いた多変量解析」「ランダム化比較実験デザインを組み込んだ調査」に取り組みます。

### 科目目的

この演習の第1の目的は、人間の心理や行動を測定できるような社会調査を実施することです。調査票作成や実験計画の技術と研究対象の背景に関する学習も含まれます。第2の目的は、得られたデータ（あるいは既存のデータ）を適切な方法で分析できるようにすることです。クロス集計・相関分析・回帰分析・因子分析・クラスター分析など、社会調査データの分析によく用いられる統計分析について実践的に習得します。

2年目にあたるこの授業では、「既存のデータを用いた多変量解析」「実験デザインを組み込んだ調査」に取り組みます。

### 到達目標

後期の目標は次の通りです。①比較対照実験の考え方が理解できるようになること。②因果推論と交互作用に関するデータ分析ができるようになること。

### 授業計画と内容

- 第1回 イントロダクション：ランダム化実験の考え方
- 第2回 仮説検証のサイクルと因果推論
- 第3回 交互作用の考え方
- 第4回 実験の論文を読む（1）1要因の実験 Aチーム
- 第5回 実験の論文を読む（2）2要因の実験 Bチーム
- 第6回 研究テーマを考える
- 第7回 仮説を立てる
- 第8回 実験計画を立てる（1）変数の検討
- 第9回 実験計画を立てる（2）刺激の検討
- 第10回 実験画面の作成
- 第11回 実験の実施
- 第12回 実験データの分析（1）平均値の差の検定
- 第13回 実験データの分析（2）分散分析と交互作用
- 第14回 統計的仮説検定とその限界

### 授業時間外の学修の内容

その他

### 授業時間外の学修の内容（その他の内容等）

指示に応じて課題を提出する。

### 授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・ 毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・ 毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

### 成績評価の方法・基準

種別	割合 (%)	評価基準
レポート	50	問題の設定、先行研究の引用、議論の展開、データ分析と読み取りが適切に行われているか、などの観点から評価します。
平常点	50	授業への参加、課題の提出状況などを総合的に判断します。なお、出席率が70%に満たない場合は、成績評価の対象外とします。

---

**成績評価の方法・基準（備考）**

---

**課題や試験のフィードバック方法**

---

授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う

**課題や試験のフィードバック方法（その他の内容等）**

---

**アクティブ・ラーニングの実施内容**

---

PBL（課題解決型学習）、ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーション、実習、フィールドワーク

**アクティブ・ラーニングの実施内容（その他の内容等）**

---

**授業におけるICTの活用方法**

---

その他

**授業におけるICTの活用方法（その他の内容等）**

---

manabaによる学習支援

**実務経験のある教員による授業**

---

いいえ

**【実務経験有の場合】実務経験の内容**

---

**【実務経験有の場合】実務経験に関連する授業内容**

---

**テキスト・参考文献等**

---

**【テキスト】**

南風原 朝和・平井 洋子・杉澤 武俊(2009)『心理統計学ワークブック: 理解の確認と深化のために』有斐閣  
そのほか、授業中にレジュメを配布します。

**その他特記事項**

---

**参考URL**

---

**コメント1**

---

**コメント2**

---

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連については、所属学部のカリキュラム表をご確認ください。

**コメント3**

---

**コメント4**

---

## シラバス

授業科目名	年度	学期	開講曜日・時限	学部・研究科など	担当教員	配当年次	単位数	科目ナンバー
AI・データサイエンス演習B(2)	2024	後期	金6	学部間共通科目	酒折 文武	3年次配当	2	

### 授業形式

全ての授業回について、対面と遠隔を併用したハイブリッド型授業を行います。

### キャンパス・教室

後楽園キャンパス・6413※2024/03/18更新

### 履修条件・関連科目等

AI・データサイエンス演習A(1)(2)を学修済みであること。

### 授業で使用する言語

日本語

### 授業で使用する言語（その他の言語名）

### 授業の概要

【テーマ】AIやデータサイエンスを用いた問題発見・解決の実践・実装

本演習ではいずれかのプロジェクトに参加して、グループでデータサイエンスとAIを活用した問題の発見・解決を目指す。適切な手法でデータを取得、分析し、結果からの意義ある考察を行うためには、データサイエンスやAIの考えかたや手法の理解、それを実行するためのツールを使いこなす技術、そしてデータに関する背景知識が不可欠である。演習Aで学んだ知識や技術をさらに深めるために、座学や実習を通して、課題に対してAI・データサイエンスを活用して解決していく道筋を見出し、実際の課題解決とその改善を行なっていく。

### 科目目的

スポーツをはじめとする様々な実社会の問題に対し、データサイエンスやAIを活用して課題発見・解決をおこなうための考えかたと技術を修得し、その実践を行うことが目的である。

### 到達目標

- プロジェクトメンバーの一員として、データサイエンスやAIに関する技術を駆使して、プロジェクトにおける問題発見やその解決を行なうための道筋や方法を見出し、実践することができる。
- 構築したシステム等を継続して運用することで成果を得て、それをもとに改善の要否を判断し、必要に応じて修正することができる。

### 授業計画と内容

授業は全体へのレクチャー・情報共有とプロジェクトごとの活動からなる。

- 第1回 プロジェクトの目標設定、プロジェクト活動
- 第2回 Linuxサーバ発展、プロジェクト活動
- 第3回 スポーツにおけるデータサイエンスの実践例、プロジェクト活動
- 第4回 eスポーツにおけるデータサイエンスの実践例、プロジェクト活動
- 第5回 生成AIの基礎、プロジェクト活動
- 第6回 機械学習の解釈性、プロジェクト活動
- 第7回 プロジェクト活動
- 第8回 プロジェクト活動中間報告
- 第9回 強化学習とは、プロジェクト活動
- 第10回 プロジェクト1、2による報告と議論
- 第11回 プロジェクト3、4による報告と議論
- 第12回 プロジェクト5、6による報告と議論
- 第13回 プロジェクト活動（まとめ）
- 第14回 後期の総括

### 授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと、その他

### 授業時間外の学修の内容（その他の内容等）

プロジェクトごとの作業やプレゼン準備を行ない、授業に臨む。また、プログラミング、数学、統計学等に関する自習用教材を提供するので、必要に応じて学んで知識を深めておく。

### 授業時間外の学修に必要な時間数/週

- 毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- 毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

### 成績評価の方法・基準

種別	割合 (%)	評価基準
平常点	100	授業への参加状況、プロジェクトでの作業状況、成果の内容などにより評価する。

#### 成績評価の方法・基準（備考）

#### 課題や試験のフィードバック方法

授業時間内で講評・解説の時間を設ける,授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う,その他

#### 課題や試験のフィードバック方法（その他の内容等）

mattermost を通じて行なう。

#### アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL（課題解決型学習）,反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）,ディスカッション、ディベート、グループワーク,プレゼンテーション,実習、フィールドワーク

#### アクティブ・ラーニングの実施内容（その他の内容等）

#### 授業におけるICTの活用方法

その他

#### 授業におけるICTの活用方法（その他の内容等）

BYODにより各自の端末でデータ分析等を行なう。

#### 実務経験のある教員による授業

いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

【実務経験有の場合】実務経験に関連する授業内容

#### テキスト・参考文献等

基本的にはレジュメ等の配布資料を用いる。学修状況に応じてテキストや参考文献を指示する場合がある。

#### その他特記事項

#### 参考URL

#### コメント1

#### コメント2

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連については、所属学部のカリキュラム表をご確認ください。

#### コメント3

#### コメント4

## シラバス

授業科目名	年度	学期	開講曜日・時限	学部・研究科など	担当教員	配当年次	単位数	科目ナンバー
AI・データサイエンス演習B(2)	2024	後期	木5	学部間共通科目	飯尾 淳	3年次配当	2	

## 授業形式

すべての授業回について、教室での授業とオンラインでの授業を同時に行うハイブリッド形式で行う。

## キャンパス・教室

市ヶ谷田町キャンパス・田802※2024/03/18更新

## 履修条件・関連科目等

## 授業で使用する言語

日本語

## 授業で使用する言語（その他の言語名）

## 授業の概要

【テーマ】人間の行動や社会の動向に関するデータ分析

本演習では、人間の個人の行動や、その集合体である社会の動向に関するデータを対象として、統計学や機械学習によるデータ分析を行い、何らかの新たな知見を得る演習を行う。受講者がどのようなことに興味を持つかでグループを作り、グループ単位でデータサイエンスとAIを活用した問題解決にあたる。なお、本演習で分析の対象とする社会は、リアル社会でもサイバー社会でもどちらでも構わない。それぞれのグループが取り組むべきプロジェクトとして、いくつかの課題を用意しているが、それらに限るものではなく自由な発想での課題解決を期待する。

## 科目目的

AI・データサイエンス演習AおよびAI・データサイエンス演習B(1)で学んだことを踏まえ、データサイエンスやAIを実装するための基礎、および、実践的なコンピュータ操作のスキルを身に着ける。

## 到達目標

AI・データサイエンス演習C以降の演習実施に必要な基礎スキルの習得を目指す。

## 授業計画と内容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 収集したデータの検討（プロジェクト1）
- 第3回 収集したデータの検討（プロジェクト2）
- 第4回 収集したデータの検討（プロジェクト3）
- 第5回 分析方法の検討（プロジェクト1）
- 第6回 分析方法の検討（プロジェクト2）
- 第7回 分析方法の検討（プロジェクト3）
- 第8回 分析結果に関する議論（プロジェクト1）
- 第9回 分析結果に関する議論（プロジェクト2）
- 第10回 分析結果に関する議論（プロジェクト3）
- 第11回 結果の可視化手法（プロジェクト1）
- 第12回 結果の可視化手法（プロジェクト2）
- 第13回 結果の可視化手法（プロジェクト3）
- 第14回 総括

## 授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと,その他

## 授業時間外の学修の内容（その他の内容等）

毎回、資料の下調べを行うこと

## 授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

## 成績評価の方法・基準

種別	割合（%）	評価基準
平常点	70	授業への参加状況やディスカッション、プレゼンテーションなど、ゼミにおける活動を評価する
その他	30	試験は実施しない。必要に応じて学期末に成果報告の論文やプレゼンテーションを課す

## 成績評価の方法・基準（備考）

メール・manabaなどによるフィードバックを行う

#### 課題や試験のフィードバック方法

---

授業時間内で講評・解説の時間を設ける,授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う,その他

#### 課題や試験のフィードバック方法（その他の内容等）

---

研究室での補講や学生による自主ゼミなども支援する。オフィスアワーに研究室を訪問することは歓迎する。それ以外の時間は、事前に連絡してからスケジュールを調整すること。

#### アクティブ・ラーニングの実施内容

---

PBL（課題解決型学習）,ディスカッション、ディベート,グループワーク,プレゼンテーション,実習、フィールドワーク

#### アクティブ・ラーニングの実施内容（その他の内容等）

---

#### 授業におけるICTの活用方法

---

その他

#### 授業におけるICTの活用方法（その他の内容等）

---

BYOD機器を活用したプログラミング演習や、クラウドコンピューティングとして用意される演習環境の活用など

#### 実務経験のある教員による授業

---

はい

#### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

---

1994年4月～2013年3月に株式会社三菱総合研究所において数理情報技術を応用した調査研究業務に従事。

#### 【実務経験有の場合】実務経験に関連する授業内容

---

業務で使用したプログラミング経験に基づき指導する。

#### テキスト・参考文献等

---

基本的にはレジュメ等の配布資料で代替するが、履修者の学修状況に応じて適宜指示する場合がある。

#### その他特記事項

---

#### 参考URL

---

#### コメント1

---

#### コメント2

---

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連については、所属学部のカリキュラム表をご確認ください。

#### コメント3

---

#### コメント4

---

## シラバス

授業科目名	年度	学期	開講曜日・時限	学部・研究科など	担当教員	配当年次	単位数	科目ナンバー
AI・データサイエンス演習B(2)	2024	後期	水6	学部間共通科目	中村 周史	3年次配当	2	

### 授業形式

すべてハイフレックス型で実施します。

### キャンパス・教室

多摩キャンパス・11230※2024/03/18更新

### 履修条件・関連科目等

担当教員のAI・データサイエンス演習Aで単位取得済みであることを履修条件とする。また、AI・データサイエンスと現代社会、AI・データサイエンスツールIIIおよびIVを学修していること、あるいは並行履修することが望ましい。

### 授業で使用する言語

日本語

### 授業で使用する言語（その他の言語名）

### 授業の概要

【テーマ】 データサイエンスによるEBPMの実践

本演習では、データサイエンスを利用した「客観的根拠に基づいた意思決定、提案、政策形成」（EBPM：Evidence-based Policy Making）を実践するための教育と機会の場を提供することを主とする。

社会問題の解決には、①そもそもどこに問題があるのか、②その原因は何なのか、③それを実現可能な方法で取り除くには何が必要なのか、これらを順に解決する必要があり、そのためには経済学の知見とデータの適切な処理と分析、それを実行するためのプログラミングスキルが必要となる。

演習Bでは、こうした実践としてグループ単位で研究計画を立て、EBPMを実践し、研究論文の執筆を行うところまでをカバーする。また、データサイエンティストとしてより深い内容・手法を理解できるための教育も並行して行う。

### 科目目的

より高度な計量経済学に対する理解と、研究計画の策定からデータ収集・分析、それに基づく実行可能な政策形成の実践までを目的とする。

### 到達目標

研究計画を自ら立てたうえで、EBPMを実践し、研究論文にまとめ上げることを本演習の到達目標とする。

### 授業計画と内容

3年次後期

- 第01回 研究論文中間報告①：先行研究レビュー
- 第02回 集団学習
- 第03回 カーネル法とサポートベクターマシン
- 第04回 研究論文中間報告②：仮説の検証とモデルの構築
- 第05回 ニューラルネットワーク
- 第06回 ネットワーク分析
- 第07回 研究論文中間報告③：分析結果の考察とモデルの再検証
- 第08回 アソシエーション分析
- 第09回 研究論文中間報告④：分析結果に基づく政策提言
- 第10回 論文全体を通じた校正作業
- 第11回 研究論文報告に向けた発表資料作成
- 第12回 時系列分析
- 第13回 生存分析
- 第14回 総まとめ

### 授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと、授業終了後の課題提出、その他

### 授業時間外の学修の内容（その他の内容等）

グループワークでの研究計画の立案や、データ収集・分析、論文執筆を行う必要があり、またそれを外部のコンペで発表する予定である。

### 授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

### 成績評価の方法・基準

種別	割合 (%)	評価基準
平常点	50	レジュメの報告内容、小課題の提出状況、質疑への参加状況によって評価する。
その他	50	提出された研究計画やグループワークでの貢献度で評価する。

#### 成績評価の方法・基準（備考）

##### 課題や試験のフィードバック方法

授業時間内で講評・解説の時間を設ける,その他

##### 課題や試験のフィードバック方法（その他の内容等）

SNSを利用した指導・フィードバックを適宜行う。

##### アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL（課題解決型学習）,反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）,ディスカッション、ディベート、グループワーク,プレゼンテーション,実習、フィールドワーク,その他

##### アクティブ・ラーニングの実施内容（その他の内容等）

##### 授業におけるICTの活用方法

その他

##### 授業におけるICTの活用方法（その他の内容等）

PCを利用したプログラミングを含む。

##### 実務経験のある教員による授業

いいえ

##### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

##### 【実務経験有の場合】実務経験に関連する授業内容

##### テキスト・参考文献等

計量経済学テキスト

金 明哲,『Rによるデータサイエンス(第2版):データ解析の基礎から最新手法まで』森北出版, 2017.

松村 優哉・湯谷 啓明・紀ノ定 保礼・前田 和寛,『改訂2版 RユーザのためのRStudio[実践]入門~tidyverseによるモダンな分析フローの世界』,技術評論社, 2021.

経済学テキスト

二神孝一・堀敬一,『マクロ経済学 第2版』,有斐閣, 2017.

##### その他特記事項

- ・学内外のコンペに参加し、そのためのグループワークが課外で必須となる。
- ・病欠・公欠・就職活動のような特段の理由なく欠席がある場合、評価対象としない。やむを得ず欠席する場合は、事前に連絡をすること。
- ・本演習は経済学についても取り扱うため、2コマ分の時間確保を要する。

##### 参考URL

##### コメント1

##### コメント2

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連については、所属学部のカリキュラム表をご確認ください。

##### コメント3

##### コメント4